

二〇八

物

類

部

五



怪物集の編中より又



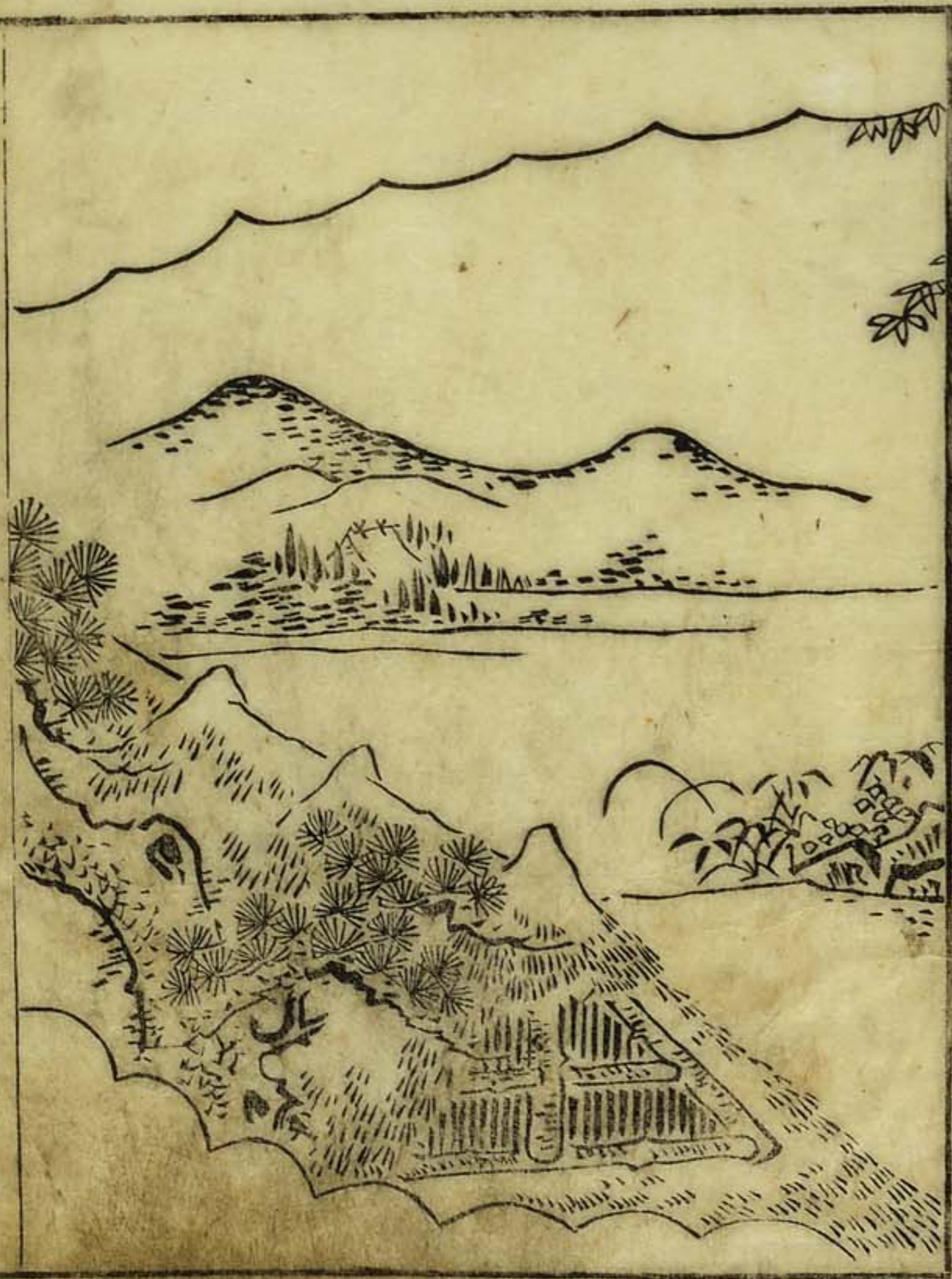
岩倉少女遙淫遊る成鬼活

心づまひばや有る人出路岩倉のほこり
 沈沈何来とつるものあり。亦ハ禁國小海
 の武士よりしぐ子佃あつて療樹の身と成
 愛り隠遣して標の住めとせり。一
 人の字女小搦ちるもの天竺の美色秀
 異つて且おや乃及り精く聰的玲
 判ちりりぬびねるりの情と知り。まゝ若

怪物と論巻五

おいと寄ざるハなうた。ねらふ小搦も
 布淫色の情深く。秀く近隣乃美
 男壯士と公と通いせ。彼とちり足るわく。
 ぬびねの技のあつ。うめ女乃おぬみ
 習る治のくきねふひして。果々その
 男とち乃争論と引出。ぬ父母と歡
 り。或ひいを。あるひハ及論。連ふ
 高解と。久も教て容を。只淫淫
 去て一公狂亂のづく。おるくを。迫り遂

おりきて、や胃と申す小あびぬ。去ほはどふ
 小撮の山とれく月守方絶し。精神方
 持牙極して忽病乃身は沉え。此方了既
 軀疲弱く。医意強ちやくして強ふ空ひぬ
 やうりしれは父母の無傷つみたよりやうく。その
 業因乃深甚やうくと虫像して具馬子名
 送る葬をといやうく。和信侶救ぬ小布龍と
 引て怒り佛度付書し。推乃侶古申
 了送教を理免養をと集てはその
 影了音



小初あつむを。余るはけ糸女身毎人
とをさざけ。るて病架子居く。ゆを指著
能と毒も中。福が内奉て。是を奇
ある。女深更。了。追ひ糸女が。父
彈正。や。あ。の。暗。ふ。病。架。と。何。ひ。い。る。ふ。肯。お
茶。着。々。う。の。整。共。整。乃。女。公。衣。と。着。て。さ。も
破。指。う。る。子。と。伸。し。糸。女。が。肩。ふ。ら。ち。裁
て。脚。指。水。里。彈。正。大。不。恐。怖。し。こ。の。如。何
や。あ。る。長。ど。や。是。全。く。精。神。喪。失。の。時。に

怪物論卷五

條。て。彩。筆。の。指。小。抱。う。る。の。の。な。る。ん。ん
人の脚てを。敢。女。人。と。なる。の。の。ハ。医。士。者。う
つ。る。難。魂。病。あ。る。と。そ。の。ふ。ハ。異。わ。つ。う。く。え。た
ま。ん。て。人。乃。肝。子。邪。と。受。む。脚。肘。ハ。その
鬼。行。う。海。一。邪。静。あ。て。鬼。眠。る。と。を
あ。ま。と。今。行。小。初。あ。の。て。鬼。降。る。あ。を。ほ
ざる。肘。ハ。か。る。雲。と。あ。ま。と。の。を。あ。ま。と。て。も
難。治。の。症。奈。何。ま。ん。ま。ん。と。ま。ん。ま。ん。と。近。不。良。の。医
と。あ。て。死。ま。る。小。切。あ。る。も。を。比。如。形。奇

疾いと然しかめるるのの筆しつあるるみ途いあるまとの物ぶつ
 者しや後ご中ちゆうみ異い形かたの女によと交くわ媾ごうの周しゆうと結くわつ
 人にん俸ほう乃の是こゝ其こゝととおお然らみみ是こゝと世せ増ぞうみ
 難なん免えん之の病びやうああううと得あやままとと靴あひ穿せんららるるして各おの々おの
 神かみ子こ所ところに佛ぶつみ借かりらるるば怪かい病びやうと碎さい人にん
 難なんをを或ある人ひと回まわこの奇き疾しやくたたみああららるるををれ
 難なん免えん之の病びやうの公こう行ぎやうをを耗こうのの病びやうふふして外がい人にんの
 同どうみみんんめめききののみああららるるばば病びやう者しや自じ所ところの
 外がいふふををああららるるををせせららるるをを行ぎやうのの處ところよりより



けとむらゝの疵しずけるみ候もちてなり。今流りの疵
 のとれた能よく衆まう人の目みまが遮しる。群しる一人ハ
 女形に。是こ誰た亮やうる能あむ金まうく沈し沈げ何
 ちあが娘むすめ小様こさまが執ま念んのちあきを所しよなり。巨おほ木
 此こ任まり深ふか然ぜんと好このえるをま及まふ及まて命いのちと突つ
 ひあまるく世よ界か乃すなはち美う男おとこ壯さう士し不ふ性じやう惚とつとく。
 送おくり感かんの情じやうとあまをまがゆ人ひとよ。ここ念ん出でるさそ
 して此こ邪よこしま謀まうと人ひと不ふ受うさまめ。男おとこ女むすめ乃すなはち情
 と函はこびせんときるののちあう。是こにかがか執まの

活いれよよして斯る害とおもはるはらる居る。
 我我緒緒人人の為すは邪邪道道と對るはらる。
 自自後後及及人人救救多多人人と率てうの小ざらうと
 と於疾疾まらる化煉煉まらると率率於於終終乃乃面面
 了了以以三三字字と憑めらる。
 籠籠籥籥し群談談採採余余は世文文
字及及うう中中惡惡邪邪
氣疫疫鬼鬼ホと防防く也とめ以以記記て墓の前を建たした。衆衆人人と
 個個小小侍侍小小藏藏ぬて指指抄抄子子と向ふ所有有。
 子子次次五五文文の比及及ふ長と長せ一異異教教
 乃乃女女死死まらしてはそとなとスるよりも忽忽

怪物論卷五

驚驚異異逆逆之之眼眼といいく。一一氣氣飛飛煙煙火火ト
ミどれにミとミと
キとミと
 て。ここめめ者者の所おおちちるや。日日れ墓の中中小小人人
 小小と小る小。小小於於卒卒於於終終と建ますて。ここれを
 阻阻む小の怪さらと。大大小小罵罵まら咬咬月月齒齒
 怒怒して彼ららをサつるここらけと中に家ハ大地地
 小小割割まら依依て泣味味ぶおる噉々々物物傳傳し。
 射射ふ石思思汝汝や那里里ももちちく威風風秀秀
 驚驚く。壯壯士士各各甲甲冑冑小小兒兒と固め鐵戟戟と
 擧擧ぐ大勢勢一一路路ちち小小競競まらしてうの女女とを固固こ。

霞^{らう} 輝^{せい}と發^{たつ}しつるふ。我^{われ}く汝^なが邪^{よこしま}淫^{いん}のあふ

今^{いま}や一^{いつ}命^{めい}と矢^やつんとまざる隙^きふ玉^{たま}水^{みづ}やる社^{このむ}を

念^{ねん}身^み法^{ほう}不^ふ徴^{てう}しつと忘^{わす}れく。おとそそる仇^{あひ}

と報^{ほう}むらやうと。銘^{めい}く報^{むち}と奉^{ほう}て及^{およ}報^{ほう}を

汝^なハ因^{えん}脚^{かく}一^{いつ}號^{ごう}哭^くしつ。ある昔^{むかし}もや堪^たむごや。

報^{ほう}させあ人と前^{ぜん}過^かを悔^{くわい}え。連^{れん}不^ふ慚^{ざん}謝^{しゃ}し

歎^{なげ}死^し境^{きやう}ると今^{いま}も。於^お是^{こゝ}と空^{くう}を。思^{おも}ひの終^{まひ}

不^ふ可^か責^{せき}して既^{すで}に本^{ほん}を望^{のぞ}む。今^{いま}もと

不^ふ悔^{くわい}するを。この社^{このむ}士^し等^ら候^あ然^{ぜん}しつて



形なり容ち清き矢や々々れば。廿にもも行ゆるるののああくく只ただ冷ひや風かぜ
 飄ひら々々のの祥さむ人ひと々々のの乳ちああるるをを揺ゆるるやや、よこ東あづまは
 柳やなぎ川がはのの鳴なのの鳥とり生な後ごるる不ふ殺ころ馬うま死し。又また白しろ木き
 屋やををととまま出で。園まふふかかのの青あお煙えんをを同どう敷しき子こまま
 るるナナとと。ナナ今いま未いま曾ぞう有うあありりとと終ま合あおお
 連つてて帰き妻さい一いららるるがが。自ま後ご一いててりりのの流ながれれのの
 青あお疾しつとと然しかるる者もの。年とし終しまふふ晏あん然ぜんとと妓き
 気きせせりり。後のち一いてて或ある人ひと不ふ同どうてて回まりりふふ小こ
 揺ゆるる色いろ不ふ溺なれれてて。死し後ご抱かかりり着きるるのの念ねん富とみ

字より逐ひすまひ驚おどく世の美男と志こひて。
 是がいある小害とおちよとてご霊のお業をいの
 遠感いりお着おさるのをいよりう子怪事と
 ちよとておちよおるのをいれど。今甲胃乃お士
 るのの小振おとお撃おてお叛おのお情おとお世
 とおちよおるの何人の怨お恨おをいんおが
 邪お呆お小お抱おされお若おめおらおるの病者お少おくおは
 とおちよおるの比お白おいおまおごおるの命おとお害おひおるの若おと
 軍おをお絶おるの念おをお思おのおちおりお教おとおあおる

怪物論卷五

へまおだおれお所お謂おちお。因おてお其おのお原おとお解おく
 於おへおるの人おはお是お腎神おなりお。病者おおおれお小
 小振おがお強お淫お小お抱おされお洗お不お腎お乃おのお妻
 之おせおいお病者おのお腎神お亦お不お教おとお厭おし
 之お教おとおおおるののおあおるの凡おてお人お乃お腎神
 乃お皆お絶おまおるの時おへお神お念おとお守おるの事お能お
 乃お也お。亦お不お教おとおあおるのをおちよおるのとお奏お志お及
 乃お医お教お亦お不お詳おなりおとおるの因お不お畏お乃
 乃おくお情おをお絶おるの念おをお思お乃お一お也お不お一お

視^{けん}察^{さつ}^人^ち 擬^ぎ 妖^{よう} 妖^{よう} 妖^{よう} の 鄙^ひ 情^{じやう} と ひき 出^で し。人^{ひと} の 天^{てん}
あやまら 年^{ねん} と 愆^{あやま} こゝも 顧^{くわん} ざる^{ざる} 乃^の らる^{らる} 乃^の らる^{らる} 乃^の らる^{らる}
つゝめ 汝^{なん} 甚^し やる^る 乃^の 何^{なに} て せう^{せう} 怨^{うら} て

俛^く 僚^さ たる^{たる} 年^{ねん} 乃^の らる^{らる} 乃^の らる^{らる}

怪物書論卷之五終

怪物書論卷之五

享和三年春三月發行

京寺町通本原下町

勝村治重

大坂の春橋筋久宝寺町

勝尾屋六兵衛

江戸四日市

松平平助

同所

石渡佐助

同所 江戸四日市

夢田屋利兵衛

書林